

2007年度

環境報告書



【 目 次 】

第1章 巻頭辞と概況

- (1) 巻頭辞..... P. 2
- (2) 基本的要件と事業の概況..... P. 3

第2章 環境方針・目標・実績等の総括

- (1) 医療生協さいたまの環境方針..... P. 6
- (2) 2007年度の目的・目標と実績等の総括..... P. 7
- (3) インプットとアウトプット..... P. 9

第3章 環境マネジメントの状況

- (1) 環境マネジメントシステムの状況..... P.10
- (2) サプライチェーンマネジメントの状況..... P.16
- (3) 情報開示と環境コミュニケーション..... P.17
- (4) 環境法規制順守の取り組み..... P.18
- (5) 緊急事態対応訓練の概要..... P.19

第4章 環境活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取り組みの状況

- (1) エネルギー使用量の削減..... P.20
- (2) 紙使用量の削減と再生紙の使用促進..... P.24
- (3) 廃棄物の削減と適正な処理..... P.29
- (4) 環境負荷を軽減する活動の促進..... P.32
- (5) 環境に配慮したまちづくりに参加する..... P.34
- (6) もっとも愚かな環境破壊である戦争につながる
行為に反対し、平和を守る..... P.37



第1章 巻頭辞と概況

(1) 巻頭辞

自然環境の維持と人間の生存環境の発展を

四季がめぐり来て、季節を感じながら生活をしています。

ここ数年、「何か変だぞ」という気候変動が多くなってきています。

異常に暑かったり、寒暖の差が大きかったり、降雨の状態が激しかったり、こんな中で「自然災害」が多発しています。

森林伐採を過度に行い、化石燃料を大量に消費してきて、「文明」の発展を図ってきている現状の「付け」がだんだん大きくなってきている実感です。

地球環境の保全は緊急、且つ、一時もおろそかにできない課題になっています。

こんなかで「洞爺湖サミット」が開かれました。

しかし、多くの思惑から、「実効のある」合意はできていません。この間、暫く「総論賛成、各論反対」の状態が続いています。

作物生産も不安定になってきます。

さまざまな「エコ」の取り組みがなされていますが、注意しなければならない事象も起こっています。「石油」に代わる燃料の開発での「植物」からの燃料生産の過程で、食物供給のバランスが失われてしまう懸念が出ています。

私たちは、目先のことでなく、全体のバランスと将来の姿を見定めつつ物事を進めなくてはなりません。自分たちが今やっていることの「位置づけ」をしっかりと、意義を確認し、その先を見てどんな小さなことでも日々実行しましょう。

自分たちの生存環境の中で「もうひとつ」の重大な環境破壊も進行しています。日本は世界に冠たる「健康保持機構」たる「国民皆保険」を作り上げてきました。これが破壊されつつあります。「健康で文化的な」生活を維持していく上で、これらの健康保持の機構は必ず維持しなければなりません。憲法9条・25条の輝きをもっともっと大きくしましょう。身近な環境への取り組みに、自分たちの生存環境の保全の取り組みをリンクさせていきましょう。



2008年8月31日
医療生協さいたま生活協同組合
理事長 神谷 稔



(2) 基本的要件（対象組織・期間・分野）と事業の概況

① 基本的要件（対象組織・期間・分野）

対象組織：医療生協さいたま全体

対象期間：2007年度（2007年4月1日～2008年3月31日）

対象分野：医療生協さいたまの全事業（保健医療事業、介護事業、配置薬事業、組合員対象サービス事業）

② 事業の概況（2008年3月末現在）

名称：医療生協さいたま生活協同組合

本部所在地：川口市木曾呂1317番地

代表者：理事長 神谷 稔

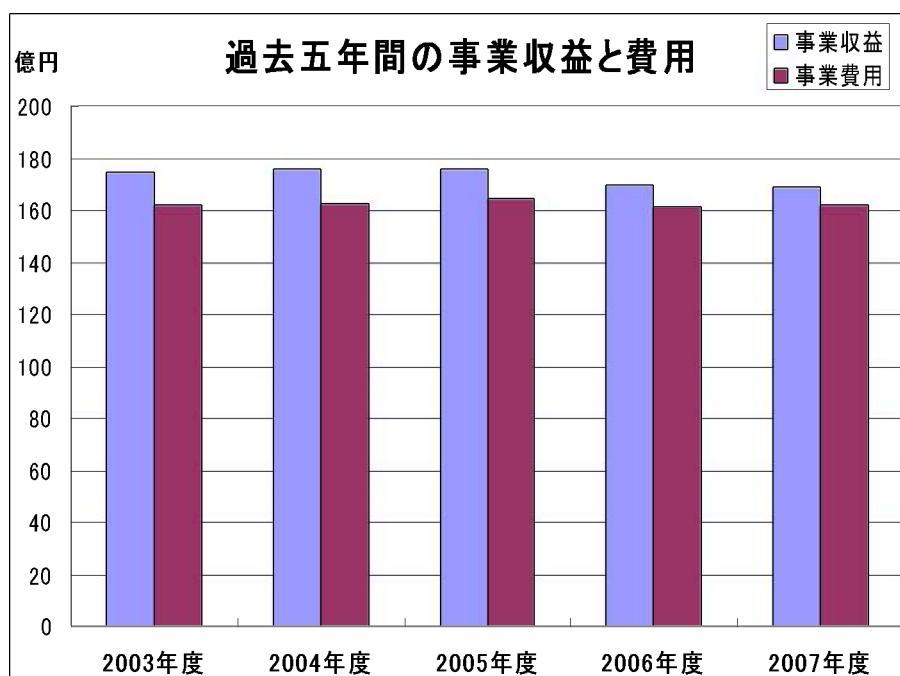
出資金：59億1千5百万円

事業収益：約169億円

職員数：常勤職員1,111人、非常勤職員643人（常勤換算）

事業内容：保健・医療事業、介護事業、配置薬事業、組合員対象サービス事業

事業所：4病院（一般病床436床、療養型病床195床）、9医科診療所、2歯科診療所、2老人保健施設（入所定員200人）、18訪問系介護事業所、配置薬事業、本部



④ サイトにおける業務一覧

サイト No.	サイト名	各サイトの業務一覧			
		外来診療	病棟診療	その他	介護事業
1	埼玉協同病院	内科、消化器、循環器、呼吸器、小児科、外科、整形外科、皮膚科、脳神経科、産婦人科、麻酔科、放射線科、眼科、耳鼻科、精神科、リハビリ科、泌尿器科、神経内科	8病棟 401床	各種健康診断	訪問リハビリ
2	埼玉西協同病院	内科、外科、循環器科、皮膚科、眼科	1病棟50床	各種健康診断	訪問リハビリ
3	熊谷生協病院	内科、小児科、消化器科、皮膚科	2病棟 105床	各種健康診断	通所リハビリ、訪問リハビリ、療養型病床、短期入所
4	秩父生協病院	内科、小児科、循環器科、消化器科、リハビリ理学療法科	2病棟 75床	各種健康診断	通所リハビリ、訪問リハ、療養型病床、短期入所
5	老人保健施設みぬま				入所、短期入所、通所リハビリ
6	老人保健施設さんとも				入所、短期入所、通所リハビリ、訪問リハビリ、居宅介護支援
7	川口診療所	内科、小児科、循環器科、消化器科		各種健康診断	通所リハビリ、訪問リハビリ
8	さいわい診療所	内科		各種健康診断	
9	浦和民主診療所	内科、循環器科、消化器科		各種健康診断	
10	おおみや診療所	内科		各種健康診断	訪問リハビリ
11	かすかべ生協診療所	内科		各種健康診断	通所リハビリ、訪問リハビリ
12	大井協同診療所	内科、小児科		各種健康診断	通所介護、訪問リハビリ
13	上福岡協同診療所 (医療生協ふじみ野ケアセンター)	内科、小児科		各種健康診断	訪問リハビリ、訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
14	所沢診療所	内科		各種健康診断	訪問リハビリ
15	行田協立診療所	内科、小児科、歯科		各種健康診断	通所介護
16	生協歯科	歯科、小児歯科、矯正歯科			
17	あさか虹の歯科	歯科、小児歯科、矯正歯科			
18	ケアステーションかしの木				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
19	ケアセンターきょうどう				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
20	ケアセンターかがやき				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援、通所介護
21	医療生協ケアセンターわかかさ				訪問介護、居宅介護支援
22	医療生協ケアステーションうらしん				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援、通所介護
23	ケアセンターかもがわ				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
24	医療生協おおみやケアセンター				訪問介護、居宅介護支援、通所介護
25	医療生協ケアセンターひだまり				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
26	生協ケアセンターたかしな				訪問介護、居宅介護支援
27	ケアセンターとこしん				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援、通所介護
28	ケアセンターはんのう				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
29	熊谷生協ケアセンター				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
30	生協妻沼介護センター				訪問介護、居宅介護支援
31	生協介護センターこだま				訪問介護、居宅介護支援
32	医療生協ケアセンターさきたま				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
33	生協ちちぶケアステーション				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
34	生協ながとろケアステーション				訪問介護
35	本部事務局			法人事務業務 組合員対象サービス	
36	配置業センター			配置業サービス	

第2章 環境方針・目標・実績等の総括

(1) 医療生協さいたまの環境方針

ISO14001 環境方針

地球環境の保全と創造は、21世紀の人類共通の課題であり、私たちひとりひとり（組合員・職員）にとっても、事業者（医療生協さいたま）にとっても、避けて通れない課題となっています。

医療生協さいたまは、「健康なくらし、明るいまち、生きいき医療生協」をめざし、埼玉県全域で医療・介護のサービスを展開する事業者として、地球環境に配慮した活動を積極的にすすめます。

医療生協さいたまは、大規模な開発による環境破壊や排気ガスによる大気汚染、もっとも愚かな環境破壊である戦争行為に反対し、いのちと平和をまもり環境を保全する活動にとりくみます。

医療生協さいたまの職員は、毎日の仕事（事業活動・サービス）を通じて、環境の改善及び汚染予防、環境マネジメントの継続的向上をはかり、環境関連の法律や規制、協定を遵守します。

1. 医療生協さいたまは、環境保全、環境負荷軽減のために以下の事項に積極的に取り組みます。
 - ①電力等、エネルギー使用量を削減します。
 - ②紙使用量を削減するとともに、再生紙の使用を広げます。
 - ③医療材料等の使用にあたって、環境負荷の少ない製品を積極的に選択します。
 - ④廃棄物の適正な処理と削減をはかります。
 - ⑤エネルギー消費や自動車の使用に伴って発生する二酸化炭素、窒素酸化物の削減に取り組みます。
 - ⑥環境に配慮したまちづくりに参加します。
2. 医療生協さいたまは、各事業所及び生協本部において、環境目的と目標を設定し、環境マネジメントシステムを継続的に見直し、業務の改革につなげます。環境方針及び目標達成の課程と成果は全職員に周知します。
3. 医療生協さいたまは、この環境方針を、印刷物やホームページ等を通じて広く一般に公表します。

2004年9月1日
医療生協さいたま生活協同組合
理事長 神谷 稔

(2) 2006年度の目的・目標と実績等の総括

① 環境目的・目標一覧表

NO	環境目的 (到達点)	環境目標	事業所														目的・目標 根拠								
			埼玉協同病院	埼玉西協同病院	熊谷生協病院	秩父生協病院	老健みぬま	老健さんとも	川口診療所	さいわい診療所	浦和民主診療所	おおみや診療所	かすかべ生協診療所	大井協同診療所	上福岡協同診療所	所沢診療所	行田協立診療所	生協歯科	あさか虹の歯科	介護事業所	本部・配置業	環境方針	環境側面	法規制	利害関係
1	CO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 排出量を、2006年度以下に削減	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◇	◇	◎	◎	◎	◇	◇	◎	◇	◎	◇	◎	◎	○	○		
2	紙使用量の削減と再生紙の使用促進	紙使用量(購入枚数)を、2006年度の98%以下に削減、色紙比率を落とし、A版化比率を高める	◇	◎	◎	◇	◎	◎	◇	◎	◎	◎	◎	◇	◎	◎	◎	◇	◇	◎	◎	○	○		
3	廃棄物の削減と適正な処理	紙類の回収、再資源化の徹底	◇	◇	◇	◎	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	○	○	○	
		感染性廃棄物を2006年度以下に削減する	◎	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	○	○	○
4	環境負荷を軽減する活動の促進	業務改善・工夫による資源(医療材料)の抑制	◎	◎	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	○	○		
		環境負荷の少ない製品の積極的選択	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◎	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	○	○	
5	環境に配慮したまちづくりに参加する	NO ₂ の測定を広げるなど、組合員と共に健康にらせる環境づくりに取り組みます	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	○			
		周辺環境整備や緑化の推進に取り組めます	◇	◇	◇	◎	◇	◎	◎	◇	◇	◎	◇	◎	◇	◇	◎	◎	◇	◎	◎	○	○		
6	もっとも愚かな環境破壊である戦争につながる行為に反対し、平和を守る	組合員と協同し、「憲法9条」と平和を守る活動に取り組む	◇	◇	◎	◎	◎	◎	◇	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◇	◎	◎	◎	○			

◎は事業所目標に設定 ◇は環境方針を具体化し(環境活動関連規程等)実施



② 環境管理進捗表

【環境目的・目標達成度を示す情報】

*パフォーマンス 2007 年度実績値(2007 年 4 月～2008 年 3 月)

各値の前年度比は、電力使用量 104.5%、ガス使用量 105.8%、水道使用量 89.8%、灯油使用量 96.1%、ガソリン・軽油使用量 106.3%、紙購入量 96.5%、CO₂排出量 104.3%、感染性廃棄物量 100.5%、廃酸・廃アルカリ量 111.7%となりました。

CO₂排出量換算では、104.3%と前年度より 4.3%の増加となりました。また、紙購入量の対前年度比では、96.5%で、前年度を 3.5%下回っています。

廃棄物関係では感染性廃棄物で 0.5%増加、廃酸・廃アルカリで 11.7%増加しました。

*事業所からの報告等

- ・2006 年度の環境情報記録は、463 件寄せられ、前年度対比で 91.1%と 8.9%減少したものの、0 件のところが 1 事業所しかありませんでした。
- ・周辺美化・緑化、紙削減、ゴミ減量化・有効活用等に継続的に取り組む事業所が増えてきています。
- ・8 月に「防災キャンペーン」を提起し、各事業所で取り組まれました。
- ・秩父生協病院や熊谷生協病院等でエコキャップ運動を推進しています。
- ・各地で平和・憲法の学習会やアピール行動を行っている報告が寄せられてきています。
- ・電子カルテ導入から 1 年以上を経過する中で、打ち出しているカードや帳票類の見直しが進められ、紙削減につなげているとの報告が寄せられてきています。

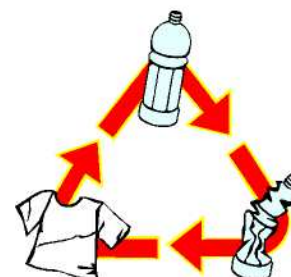


*その他の情報

- ・「2006 年度環境報告書」が作成され、国・県の機関や関係市町村等に配布されました。
- ・第 5 回環境コンクールが環境教育やCO₂削減をテーマに行われ、優秀事業所が表彰されました。

【評価、コメント】

1. パフォーマンスは、項目別に見ると水道と灯油以外は対前年度比で上回り、CO₂ 排出量換算では、104.3%と前年度を 4.3%上回っていて重大です。今後のCO₂削減の取り組みがいっそう重要となっています。しかし、紙購入量は 96.5%で、前年度を 3.5%下回っていて、3 年ぶりの減少となりました。
2. 「エコキャップ運動」に取り組む事業所が増加してきていますが、その経験交流と全事業所でのさらなる展開が期待されます。
3. 新しい事業所の建設や設備更新にあたっては、環境に配慮した対応が求められています。事前の環境影響評価を規程化し、様式も定めて、取り組んでいます。
4. 地球温暖化が進み、ポスト京都議定書が議論される中で、環境問題の学習・普及がさらに重要になっています。



(3) インプットとアウトプット (2007 年度)

<インプット> (著しい環境側面)

*電気使用量 (9,550,358kw 時)

*燃料使用量

都市ガス (1,228,490 立方m)

L P G (32,483 立方m)

灯油 (32,664 L)



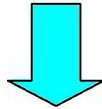
*自動車用燃料使用量

ガソリン (222,089 L)

軽油 (10,504 L)

*紙使用量 (13,180,500 枚)

*医療材料、衛生材料の使用



*保健医療サービス

●外来 ●入院 ●在宅 ●健診



*介護サービス

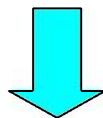
●訪問看護 ●訪問介護 ●居宅介護支援 ●通所リハビリテーション
●通所介護 ●訪問リハビリテーション ●老人保健施設入所
●療養型病床の入所 ●短期入所療養介護サービス



*配置薬事業サービス

*組合員対象サービス

●保健教室 ●くらしの学校 ●ヘルパー2級及び3級講座
●健康機材販売サービス ●組合員情報紙「けんこうと平和」発行サービス



<アウトプット> (著しい環境側面)

*感染性廃棄物 (379,636 kg)

*二酸化炭素排出 (6,583,197kg)

*汚水、排水 (165,502 立方m)

*廃現像液 (5,102 L)



(良い環境側面)

*再生紙の使用

*植木、植栽、観葉植物

*リサイクル製品の利用



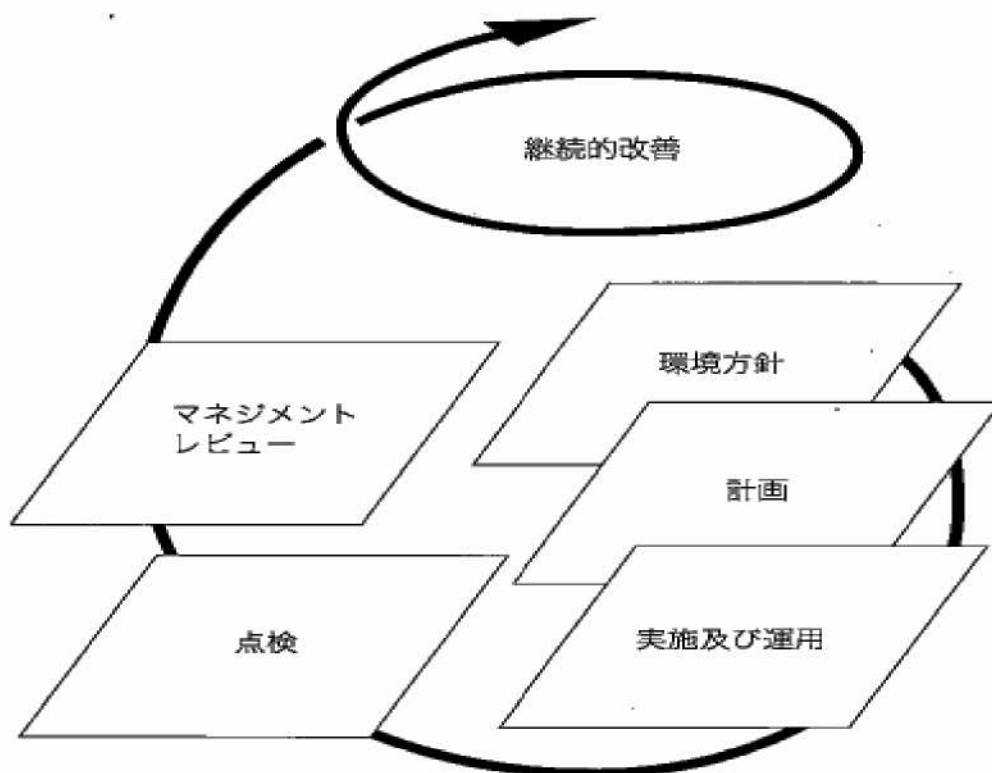
第3章 環境マネジメントシステム

(1) 環境マネジメントシステムの状況

① 環境マネジメントシステムの概要

「環境マネジメントシステム」とは、組織の活動によって生じる環境への負荷を常に低減するよう配慮・改善するための「組織的なしくみ」のことをいいます。

組織が自ら環境方針および目的を定め、その実現のための計画（Plan）を立て、それを実施及び運用（Do）し、その結果を点検及び是正（Check）し、さらに次のステップを目指した見直し（Act）を行うという PDCA サイクルを確立していきます。それによって、環境マネジメントシステムを継続的に向上させ、環境に与える有害な負荷を減少させることをねらいとしています。



<用語解説> ISO

ISO は、国際標準化機構（International Organization for Standardization）の略称で、各国の代表的標準化機関から成る国際標準化機関です。「民間自身が民間のために民間規格を作る機関」として 1947 年に設立され、本部はスイスのジュネーブにあります。設立の目的は、「商品とサービスの国際的な交換を容易にし、知識・科学・技術・経済に関する活動において、国際的な交流を助長するため、国際的な規模の標準化とこれに関するさまざまな活動を発展・促進すること」とされています。

この標準化機構が定めたものに、「ISO14001」（環境保護に関する目標を決めて取り組むもの）、「ISO9001」（一定水準のサービスを提供するために業務基準を整備してと取り組むもの）などがあり、国際的な統一規格となりつつあります。

② 第三者評価の取得

ISO14001とは、国際標準化機構（ISOと略する）が発行した、環境マネジメントシステムの国際規格です。

医療生協さいたまでは、環境問題は人類共通の課題、避けて通れない課題と考えてきました。また、医療・介護事業、健康づくりやまちづくりを担う我々にとっても避けて通れない課題です。そこで、毎日の仕事を通じて改善を続けていく環境保全の水準として、ISO14001を2002年11月に取得しました。それ以外にも第三者評価の導入を積極的に進めてきました。以下にその経過を記します。

- ・1998年2月 埼玉協同病院 病院機能評価認定
- ・2002年6月 埼玉協同病院 ISO9001認証
- ・2002年11月 医療生協さいたま ISO14001認証
- ・2003年11月 医療生協さいたま ISO9001認証
- ・2004年11月 埼玉協同病院 ISO9001、医療生協さいたま ISO9001、
医療生協さいたま ISO14001の統合
- ・2005年7月 熊谷生協病院で病院機能評価認定
- ・2006年3月 医療生協さいたま全体でプライバシーマークの認定を取得
- ・2006年3月～5月 埼玉西協同病院、秩父生協病院で病院機能評価認定



環境問題とISO14001の認証取得について

2001年7月3日 本部役員会

1. 環境問題とは何か

- ①環境問題とは、人間による生産・消費活動が引き起こす地球環境の破壊によって生ずる種々の問題である。大規模な健康影響のみならず、人類の生存そのものを危うくするものとして、21世紀の世界的課題の一つである。
- ②その主なものは以下のとおり
 - ・大気、海洋、水の汚染（道路公害、化学汚染、核実験による汚染等々）
 - ・大気中の二酸化炭素等の増加による地球温暖化。
 - ・温暖化の結果としての氷河の後退、異常気象、海水面の上昇など
 - ・フロンガスの放出によるオゾン層の破壊
 - ・野生生物の減少等の生態系の破壊
- ③近年、環境問題は深刻さを増しており、1992年の「環境と開発に関する国連会議」以降、人間活動のあらゆる分野について、環境保全の視点が求められている。



2. 医療生協の視点

- ①「自主的組合員活動と信頼される事業を通じてつくる健康な暮らし、明るいまち、生きいき医療生協」（第2次5か年計画メインテーマ）をかかげる医療生協にとっては、事業活動、組合員活動のいずれにおいても避けて通ることのできない課題である。
- ②国や大企業がすすめる大規模な開発による環境破壊や排気ガスによる大気汚染など、環境問題を社会的問題として捉えることは、重要なことである。二酸化炭素の測定活動、ゴミ問題での自治体への要請、など、これまでの活動をいっそう発展させる必要がある。
- ③同時に、環境問題とは、経済活動に携わる個々の事業者の課題であり、また、個々の働く人々や地域住民の課題であるとの認識も欠かすことができない。このような立場に立ってこそ、私たちは、主体的に環境問題に関わることができる。

3. 具体的な取り組み課題としてのISO14001の認証取得（略）

④ 環境監査の概要

1) 外部監査

医療生協さいたまでは、審査登録機関による ISO14001 サーベランス審査を 6 ヶ月毎に受審してきました。しかし、2004 年 11 月の ISO9001 との統合に伴い、以後の審査は、ISO9001 との統合審査として実施されることになりました。その統合審査第 5 回サーベランスが、2007 年 5 月 30、31 日に、統合審査更新審査が、9 月 18～21 日に行われました。

【統合審査第 5 回サーベランス】 2007 年 5 月 30、31 日

経営者層、本部機能の審査以外に、埼玉協同病院、埼玉西協同病院、老健さんとめ、さいわい診療所、行田協立診療所、生協歯科（特別審査）、ケアセンターかがやき、ケアセンターとこしん、熊谷生協ケアセンター、ケアセンターさきたまに審査機関の審査員が出向いての現地審査が行われました。

その結果、高く評価できる点 8 件を受けたものの、1 件の不適合指摘と「品質」と「環境」併せて 18 件の観察事項がありました。不適合の指摘があった内容は、「新設備の導入や新しい建設を行う場合、新たな環境側面を抽出し、環境影響評価を行う」と定めてあるが、工事前に事前の環境側面の抽出、環境影響評価が行われていなかった点で、新たに様式を定めました。

【統合審査更新審査】 2007 年 9 月 18～21 日

経営者層、本部機能の審査以外に、埼玉協同病院、秩父生協病院、熊谷生協病院、老健みぬま、老健さんとめ、川口診療所、大井協同診療所、上福岡協同診療所、生協歯科、あさか虹の歯科、ケアセンターかもがわ、おおみやケアセンター（特別審査）、生協ちちぶケアステーション、生協ながとろケアステーション、生協介護センターこだまに審査機関の審査員が出向いての現地審査が行われました。

その結果、高く評価できる点 21 件を受けたものの、2 件の不適合指摘と「品質」と「環境」併せて 33 件の観察事項がありました。不適合の指摘があった内容は、廃現像液、定着液の保管場所に掲示板がなかった点と取引業者の一部が取引業者一覧表に漏れていた点で、他の事業所でも同様のことがないか点検しました。

2) 内部監査

内部監査は、年間計画に基づいて、環境マネジメントシステムの有効性の確認を行うもので、この結果はマネジメントレビューに反映され、継続的な改善が図られています。

医療生協さいたまでは、ISO14001「内部環境監査規程」に基づき内部環境監査を実施してきました。その後、「品質」及び「個人情報保護」マネジメントシステムとの統合に伴い、「内部マネジメントシステム監査」として、年 2 回 6 月と 12 月に内部監査を実施しています。

【6 月の内部監査】

この監査では、併せて 75 件の不適合と 348 件の観察事項が指摘されましたが、良い点は 201 件ありました。その内、環境に関わる不適合は、8 件でした。



【12 月の内部監査】

この監査では、併せて 55 件の不適合と 256 件の観察事項が指摘されましたが、良い点は 169 件ありました。その内、環境に関わる不適合は、3 件でした。

⑤ 環境教育のとりくみ

医療生協さいたまでは、環境教育を一般教育、特別教育に分け、それぞれの対象者と教育内容を定め、事業所ごとに年間教育計画を作成して、実施してきました。

一般教育は、環境方針、環境目的・目標等の周知と環境に関する意識向上、緊急事態への対応などについて行いました。

特別教育は、著しい環境影響を生じる可能性のある作業に該当する作業手順書、及び該当する緊急事態への対応、不適合への対応、法規制についての周知について行いました。

新入職員に対しては、毎年4月の入職オリエンテーションの時期に、以下のようなパワーポイント教材を用いて、研修を行っています。

医療生協さいたま

マネジメントシステムと私たちの仕事

マネジメントシステムと「第三者評価」



- ・ISO9001品質マネジメントシステム
- ・ISO14001環境マネジメントシステム
- ・JISQ15001個人情報保護マネジメントシステム

2008.4.2
新入職員研修

医療生協さいたま 法人マネジメントシステムプロジェクト



⑥ 環境コンクールのとりくみ

<第5回環境コンクール(2007年度)>

昨年度に続いて、5回目の環境コンクールとして、CO₂の削減・環境教育について全県で推進するため、地球にやさしかったで賞と環境教育賞(みんなで学んだで賞)を贈りました。2007年4月1日から2008年3月31日までの結果を集計し、5月16日の全県会議で表彰の上、賞品を授与しました。

1. 地球にやさしかったで賞 (賞品:マイ箸)

<選考基準>2007年4月1日から2008年3月31日までの間で、CO₂排出量の削減のため、すぐれたアイデアとパフォーマンスをもって、環境活動を推進した事業所。ただし、この期間に環境情報記録で寄せられたものを対象としました。

<表彰事業所>・熊谷生協病院「CO₂排出量を対前年度比94.1%に削減」

2. 環境教育賞(みんなで学んだで賞) (賞品:シュレッダー)

<選考基準>2007年4月1日から2008年3月31日までの間で、環境教育を事業所を上げて、また組合員と共に取り組んだ事業所。

<表彰事業所>・CCさきたま「環境教育を事業所をあげて推進」

3. 特別賞 (賞品:デジタルカメラ)

<選考基準>2007年4月1日から2008年3月31日までの間で、顕著な環境活動をした事業所。

<表彰事業所>・秩父生協病院「エコキャップ運動を事業所をあげて推進」

* 第1回環境コンクール——2003年度

☆ベストパフォーマンス賞 (賞品:液晶プロジェクター)

*埼玉西協同病院——対前年比88.2%(CO₂)、85.1%(紙)

☆ベストアイデア賞 (賞品:スキャナ・コピー等複合機)

*埼玉協同病院「継続的周辺清掃活動が計12回」

☆情報記録最多賞 (賞品:36mm テプラ)

*熊谷生協病院——85通、1人当たり0.768通、9ヶ月送付

*秩父生協病院——74通、1人当たり0.829通、8ヶ月送付

* 第2回環境コンクール (ペーパーレスコンクール) ——2004年度

☆ベストパフォーマンス賞 (賞品:デジタルカメラ)

「常勤換算職員一人当たり紙購入量を昨年度対比で最も削減させた事業所」

*病院・老健・本部の部——秩父生協病院

*診療所の部——所沢診療所

*介護事業所の部——CCとこしん

☆ベストアイディア賞 (賞品:デジタルカメラ)

*熊谷生協病院「ISOXrossに手順書を登録することで紙での全部門配付を行わず紙削減」

* 第3回環境コンクール——2005年度

☆ベストパフォーマンス賞 (賞品:デジタルカメラ)

*川口診療所——対前年比88.9%(CO₂)

☆ベストアイデア賞 (賞品:自転車、テレビデオ)

*生協歯科診療所の「毎月委員会が担当しての環境活動」

*ながとろヘルパーステーション「アイデア生かした環境活動」

☆CO₂排出量記録賞(CO₂レポート賞) (賞品:デジタルカメラ)

*埼玉協同病院——毎週定時の測定と統計資料の活用

* 第4回環境コンクール——2006年度

☆ベストアイデア賞 (賞品:自転車)

*CCちちぶ「園芸部を作り、年間100鉢目標に育てて、所内を飾ると共に、育った鉢を利用者宅に無料配布したり健康祭りで販売」

☆継続活動賞(みんなで続けたで賞) (賞品:テレビデオ)

*老健さんとめ「利用者・組合員・職員が協力して環境活動を推進」



(2) サプライチェーンマネジメント (SCM) の状況

① 環境に配慮したサプライチェーンマネジメントシステムの概要

医療生協さいたまでは、新規取引業者の評価および選定に対して、「環境対応」についてを評価項目に入れて選んでいます。

さらに、現在の取引業者についても1年に1回再評価をしています。その時の評価項目にも「環境対応」を加えて、実施しています。

また、施設の新築、改築、設備の更新に際しても、環境に対する配慮を大切にしている、工事の方法、設備の内容にも環境にやさしいものを追求しています。

<用語解説> サプライチェーンマネジメント (SCM)

サプライチェーンマネジメント (Supply Chain Management) は、供給連鎖管理とも訳され、一般的には、製造から販売までの工程における情報を、組織や企業をまたいで共有することによって、効率化とコスト削減などを推進する経営手法のこととされています。

ISO14001 では、2004年改訂版で「環境側面」の項で「組織が管理でき、かつ影響が及ぼすと思われる」と記載されていた部分が、「組織が管理できる側面及び影響を及ぼすことができる側面」という言葉に改訂され、直接管理できなくとも影響を及ぼすことができる管理側面がマネジメントの対象となることが明確化されました。これによって、従来規格ではあいまいであったサプライチェーンマネジメントを明確に要求するものになったと解されています。付属書で更に具体的な考慮事項が列挙されています。

具体的には、取引先に対して、事業活動における環境配慮の取組に関し、どのような要求や依頼をしているのか、それをどのようにマネジメントしているのかなどのことです。

② 環境に配慮したサプライチェーンマネジメントシステムの実績

大井協同診療所の増改築工事の環境への配慮事項

- ☆シックハウスの心配のない「フォースター」製品を使用しました。
- ☆更衣室やトイレの電気や水道の人感センサーを使用することで、電気、水道の節約をしました。
- ☆待合室の天井に採光窓を設け、自然光で明るくしました。
- ☆外来ロールカーテンは目に優しいグリーンで統一しました。
- ☆敷地に緑を増やしました。
- ☆組合員の協力で、院内にも緑を絶やさないようにしています。



取引業者の再評価における環境対応へのチェック

- ☆毎年度末に、事業所ごとに取引業者の再評価を実施していますが、すべての取引業者について、価格、納期、購買品の品質、個人情報保護体制とともに環境対応を項目に入れて再評価をしています。
- ☆その内容は、ISO14001を取得しているかどうか、または、包装の引き取りなどに応じているかを評価しています。
- ☆再評価の結果、不十分な場合には、取り引きを中止することもあります。



(3) 情報開示と環境コミュニケーション

① ISOXROSSの活用

医療生協さいたまのLANでは、ISOXROSSという文書管理システムを利用して、マニュアルや規程などの文書、監視測定や環境情報などの記録、各種様式、学習資料などを各事業所に提供し、最新版管理をしています。



② 環境情報記録

各事業所からは、内部情報として、環境に関する活動報告、職員の気づきや問題点等が寄せられます。また、外部情報として、患者様や組合員から寄せられた意見や苦情、行政や外部団体から情報も寄せられます。それらをもとに、必要な改善処置を実施しています。

③ 「エコニュース」の発行

毎月1回定期発行され、必要に応じて号外が出され、メールで全事業所に配信すると共に、ISOXROSSに登録されて閲覧できるようになっています。これには、環境情報記録などで寄せられた環境活動等について、全事業所に知らせたい事項や監視測定結果などが載せられて水平展開されています。

④ 「環境活動月次報告書」の発行

毎月1回A4版16ページで定期発行され、メールで全事業所に配信すると共に、ISOXROSSに登録されて閲覧できるようになっています。これには、事業所毎の各種パフォーマンス値が載せられると共に、環境情報記録の抜粋、トピックスなどが掲載されて、環境活動を進める上での情報開示とコミュニケーションの手段となっています。

2007年度の環境活動を総括し、新年度に向かい、さらなる飛躍を!

各事業所での取り組み、情報または「ニュース」等を環境情報記録として送ってください。よろしくお願ひします。

事業所ごとに多様な平和活動が取り組まれています!

※環境情報記録平和活動推進を実施しました!(本部)
 ※エコカープーリング開催(7月1日(水)から10月1日(水)まで) ※2月22日(月)から29日(日)まで、各事業所で開催しました。
 ※2月22日(月)から29日(日)まで、各事業所で開催しました。
 ※2月22日(月)から29日(日)まで、各事業所で開催しました。
 ※2月22日(月)から29日(日)まで、各事業所で開催しました。

CO₂排出量対前年比4.9%増加!

2007年12月のCO₂排出量は前年比4.9%増加しました。全事業所のCO₂排出量は前年比4.9%増加しました。CO₂排出量は前年比4.9%増加しました。CO₂排出量は前年比4.9%増加しました。

紙購入量の対前年比97.5%

2007年12月の紙購入量は前年比97.5%減少しました。紙購入量は前年比97.5%減少しました。紙購入量は前年比97.5%減少しました。

2007年度 環境活動月次報告書

2008年3月版 (2007年度総まとめ)

目次

- P. 1 ----- 概要・トピックス
- P. 2 ----- 環境活動の紹介
- P. 3 ----- 二酸化炭素測定
- P. 4 ----- 環境情報記録送付数
- P. 5 ----- パフォーマンス値のまとめ
- P. 6 ----- 紙購入量
- P. 7 ----- ガソリン・軽油購入量
- P. 8 ----- 水道使用量
- P. 9 ----- ガス使用量
- P. 10 ----- 電気使用量
- P. 11 ----- 灯油使用量
- P. 12 ----- CO₂排出量
- P. 13 ----- CO₂排出量構成グラフ
- P. 14 ----- CO₂排出量指標

2008.4.30 法人MS委員会事務局作成

2008年度へ向け、環境目標を検討し、年間教育計画にも環境教育プログラムを!

各事業所での取り組み、情報または「ニュース」等を環境情報記録として送ってください。よろしくお願ひします。

事業所ごとに多様な環境活動が取り組まれています!

※環境情報記録平和活動推進を実施しました!(本部)
 ※エコカープーリング開催(7月1日(水)から10月1日(水)まで) ※2月22日(月)から29日(日)まで、各事業所で開催しました。
 ※2月22日(月)から29日(日)まで、各事業所で開催しました。
 ※2月22日(月)から29日(日)まで、各事業所で開催しました。

CO₂排出量対前年比3.1%増加!

2007年12月のCO₂排出量は前年比3.1%増加しました。全事業所のCO₂排出量は前年比3.1%増加しました。CO₂排出量は前年比3.1%増加しました。

紙購入量の対前年比97.9%

2007年12月の紙購入量は前年比97.9%減少しました。紙購入量は前年比97.9%減少しました。紙購入量は前年比97.9%減少しました。

トナーペースに設定して節約の印刷を!

※「環境と生活」紙の活用を促す!(本部)
 ※「環境と生活」紙の活用を促す!(本部)
 ※「環境と生活」紙の活用を促す!(本部)

エコニュース

2008年11月22日(水) 第5号

発行: 医療生協さいたま地区委員会事務局

(4) 環境法規制順守のとりくみ

① 環境法規の最新版管理

各事業所では、それぞれの自治体に対して、環境関係の条例についての聞き取りが進められ、その内容について、環境情報記録として事務局に送られてきます。

また、事務局では、「ISO14001 環境法規制ハンドブック」、「チェックリスト環境保全基準」等から常に最新情報を入手するように務めています。

各事業所での環境関係の条例聞き取り事例

★熊谷市役所を訪問（熊谷生協病院）

熊谷生協病院では、2006年4月から2007年3月迄の、環境条例の聞き取り調査を行いました。

熊谷市は、2007年2月13日に江南町も熊谷市に合併しました。その為だけではありませんが、環境条例の見直しが行われ、一覧表にて名称確認をしました。

医療施設として特定した条例変更はないと担当者との確認をしました。



② 環境法規等要求事項登録表の更新

2007年度は、関連する法規を調査した結果、新たに消防法と電気事業法の一部を追加し、下表の22法令について、対応すべき事項を明確にしました。

また、それ以外にも、各事業所から寄せられてきた、それぞれの自治体の環境関係の条例、業界団体等のガイドラインなど対応しなければならない要求事項を特定し、「環境法規等要求事項登録表」を更新しました。

環境法規等要求事項登録表に掲載している22法令

環境基本法、循環型社会形成基本法、家電リサイクル法、建設資材リサイクル法、廃棄物処理法、PCB廃棄物処理特別措置法、地球温暖化対策推進法、省エネ法、オゾン層保護法、フロン類回収破壊法、大気汚染防止法、自動車NOx・PM法、水質汚濁防止法、水道法、浄化槽法、消防法、高圧ガス保安法、労働安全衛生法、電気事業法、建築基準法、薬事法、医療法（施行規則第30条22）



(5) 緊急事態対応訓練の概要

全事業所で「緊急事態の可能性リスト」を作成し、緊急事態に対応するため日頃からそれらに対する対応策を検討し、対応手順を明らかにすると共に、毎年緊急事態対応訓練を実施して、いざという時への備えをしています。今年度も特に、9月の防災週間にあたり、大規模災害時緊急連絡・所在確認訓練を提起し、各事業所毎に実施しました。その他にも、日頃から火災訓練や大規模災害（トリアージ）訓練等を行っています。

<緊急事態対応訓練を実施した事例>

☆埼玉西協同病院（消防訓練）

埼玉西協同病院では、6月21日（木）13:15～14:00の日程で消防訓練を実施し、24名が、参加しました。

2月23日保健所立ち入り検査でご指導いただいた「火災発生時・空調機の運転停止」と医療ガス停止を手順に加え、消防署員による実際に消火器を用いた消火訓練、担架の代用品を使用した入院患者搬送訓練もおこなわれました。訓練後、医療ガスの学習も行いました。火災時に医療用酸素が爆発し惨事となった事例も紹介され、医療ガス室の鍵は災害時すぐにわかるよう災害時の札をつけ、医療ガス室には表示をつけ、防災訓練にのぞみました。

その結果、キーBOXの鍵は沢山あるため、災害時に必要な鍵にはすぐにわかる工夫をしないと、鍵を探しているうちに爆発してしまう可能性があることがわかりました。



☆行田協立診療所（消防訓練）

行田協立診療所では、12月10日行田市消防本部のご協力の元に事業所内の患者・利用者・組合員の皆様、職員を対象に避難・誘導・消火の訓練を行いました。内容は、①消火器の取り扱い方、②救助袋の取り扱い方、③非常用放送設備、複合火災受信機、警報盤の取り扱い方を習得することでした。

避難については、デイサービスの利用者様を職員がグループごとに分担して事務室脇まで誘導しました。また、外来では点滴者やX線・エコー室など各部屋の確認をしました。さらに、消火については、駐車場にて水消火器にて放水、消火の訓練を各自行いました。放送設備点検については、消防本部職員から説明を聞き、2階西側の静養室より救助袋での避難訓練もしました。

☆熊谷生協病院（緊急連絡網訓練）

「本日14時30分に埼玉県北部で震度5の局地的な大地震が発生しました。熊谷生協病院は倒壊を免れ、被災者救援拠点としての活動を求められています。全職員は16時までに熊谷生協病院に集合し救援活動に参加してください。」という内容で緊急連絡網が正しく機能するかの訓練を実施しました。前回との違いは、連絡網を事務長に最後にもどすから部責に戻す、で行ったことです。連絡網としては、正しく機能しませんでした。土曜日ということで、出勤者以外は留守ばかりであり、勤務者に電話するのが無駄で、そちらのほうを把握し、連絡をまわした方よいのではないかと考えられました。



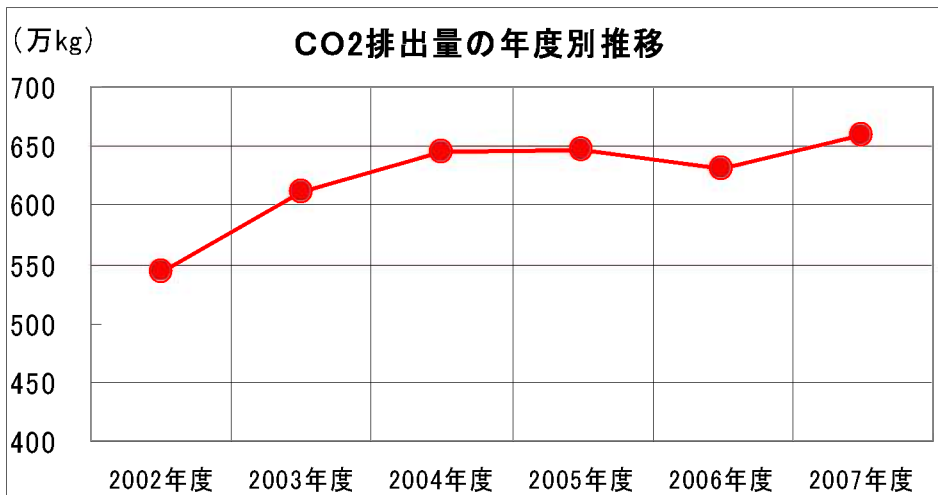
第4章 事業活動に伴う環境負荷

及びその低減に向けた取組の状況

(1) エネルギー使用量の削減

① パフォーマンス値の概要

1) 2007年度の概要



2007年度のパフォーマンス値集計の結果、全体のCO₂排出量は、対前年度累計比104.3%で、4.3%の増加となり、今までで、一番多くなっています。

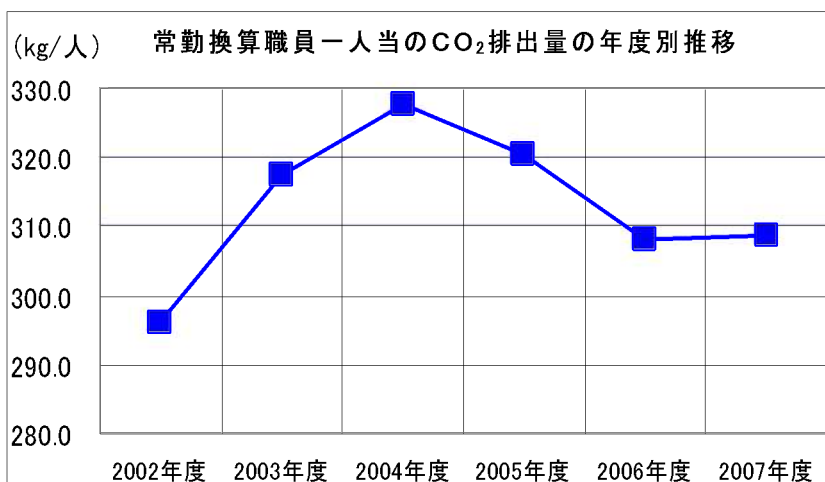
それぞれの使用量は、対前年度比では、左表のように、電気104.5%、ガス105.8%、

対前年度比	
CO ₂	104.3%
電気	104.5%
ガス	105.8%
水道	89.8%
灯油	96.1%
ガソリン・軽油	106.3%

水道89.8%、灯油96.1%、ガソリン・軽油106.3%となっていて、増加しているものも、減少しているものもありますが、老人保健施設さんとため新たに井戸を掘削した影響で、水道の使用量が大きく減少しています。

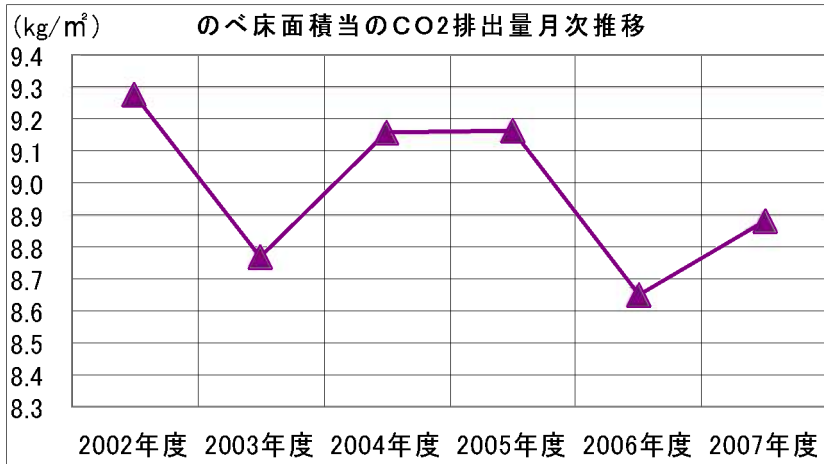
しかし、8月が猛暑となったために空調関係等のCO₂排出量が増加し、全体の数値を押し上げる結果となってしまったと思われます。

2) 常勤換算職員一人当のCO₂排出量は、対前年度比100.1%とやや増加



医療生協さいたまにおける常勤換算職員一人当のCO₂排出量を見てみると、2006年度⇒2007年度が、100.1%とわずかに増加していることがわかります。しかし、この3年間、常勤換算職員数が年度平均で、2004年度1,641.8人⇒2007年度1,778.4人へと8.3%増加している割には、CO₂排出量が抑制されていることがわかります。

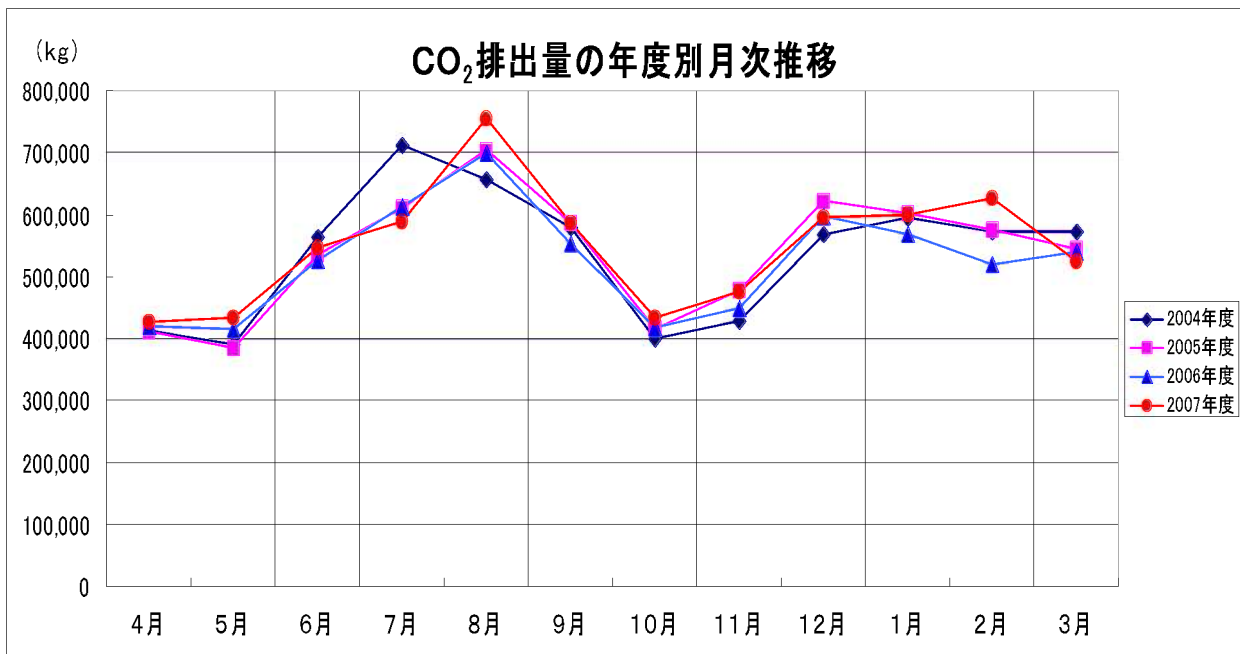
3) のべ床面積当のCO₂排出量は、2002年度より減少



医療生協さいたまにおけるのべ床面積 (m²) 当のCO₂排出量は、2006年度よりも増加し、8.9kg/m²となりましたが、測定を開始した2002年度よりは、4.4%減少しています。この間に埼玉協同病院でD館を増築、浦和民主診療所、所沢診療所、生協歯科を新築移転するなど、規模が拡大していますが、その割にはCO₂排出

量が抑制されてきていることがわかります。

4) 月次推移からは、夏期と冬期にCO₂排出量増加



全体のCO₂排出量の月次推移を見ると、上図のように夏期と冬期の割合が高く、空調関係による影響が大きいものと考えられます。特に、2007年度は8月の猛暑の影響も出ていることがわかります。

② エネルギー使用量の削減の取り組み

2007年度は、「CO₂排出量を2006年度以下に削減する」ことを目標に電気、ガス使用量を前年度以下、ガソリン使用量を事業収益の伸び以下に抑える取り組みを進めてきました。

具体的には、「エネルギー使用量削減規程」に基づき、次表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。



エネルギー	運用基準
電気の使用	<ul style="list-style-type: none"> ・節電ステッカーを貼る ・空調温度設定の順守（夏 26℃、冬 22℃） ・パソコンの終業時、不使用時の電源OFF ・エレベーターの使用について、例外除き職員の使用禁止
ガスの使用	<ul style="list-style-type: none"> ・空調温度設定の順守（夏 26℃、冬 22℃） ・ガス器具の業務以外の使用制限
ガソリンの使用	<ul style="list-style-type: none"> ・運行記録表による公用車使用状況の把握と点検 ・ガソリン購入量の請求書、伝票による把握と記録 ・「アイドリングストップ」のステッカーを貼る ・短距離は自転車使用

今年度も、夏期にCO₂排出量削減の取り組みをより徹底するために、下記のように全事業所で“クールビズ”を実施しました。

・全事業所で“クールビズ”を実施

全事業所で、7月1日～9月30日の期間“クールビズ”を実施しました。内容は、

- ① 夏期空調設定温度である 26℃を、当面 1℃高く 27℃に設定し、エネルギー削減効果を高める。
- ② ノーネクタイ、ノー上着などを含め、涼しく、効率的に仕事をすすめる服装を着用する。
- ③ とりくみの内容をポスター等で、職員・組合員・利用者の皆さんにアピールし、理解を得る。

以上で、職場毎に工夫して実施されました。

③ 取り組み事例

各事業所では、「エネルギー使用量削減規程」に基づいて、いろいろなアイデアを出し合って、取り組んできました。以下は、その事例です。

・「熊谷生協病院 アイドリングストップとエコ運転の呼びかけ」



熊谷生協病院では、往診時の運転について、アイドリングストップを行うことを再度よびかけました。

そして、安全運転・エコ運転を心がけ、事故のない安心を届ける在宅医療を目指すことを意志統一しました。

・「おおみやケアセンター 毎日2回室温を記録し適温に保つ」

おおみやケアセンターでは、毎日午前10時と午後2時に室内の温度を記録し、冷やしすぎないように留意し、エネルギー削減を実施しています。

これにより、温度が下がりすぎているときには、クーラーの設定温度を上げたり、クーラーを止めたりし、節電に努めています。



・「秩父生協病院 アイドリングストップの励行」

秩父生協病院の通所リハビリでは、担当送迎者の運転手5名が、送迎等の駐停車時にアイドリングストップを励行しています。



送迎中の速度は法定速度を守り、急激な加速を避け一定した速度での運転を心がけることにより、大気へのCO₂排気量の削減につながる取り組みを行っています。

・「ケアセンターきょうどう 自転車利用管理表の作成」

ケアセンターきょうどうでは、省エネ対策の一環として自転車利用管理表を作成することにより、いっそう自転車を利用しやすくなりました。



・「生協妻沼介護センター 節電に心がけています」

生協妻沼介護センターでは、扇風機の活用（夏場涼しい時は扇風機使用、暑いときは扇風機とエアコンを使用し冷気が巡回するようにしています。



また、エアコン使用期間は、月1回のフィルター掃除をします。

それ以外にも、夏場、電気ポットの使用は必要時以外しないなど、節電に心がけています。

・「秩父生協病院 CO₂削減に意識的に取り組む」

秩父生協病院の療養病棟では、CO₂削減に意識的に取り組んでいます。アイドリングストップはもちろんの事、信号待ちの時間をニュートラルにして削減につなげようという取り組みです。17秒以上での効果を謳っていますが、5秒以上続きそうな赤信号ではニュートラルを実施しています。そのガソリン使用量の測定結果は、

7月⇒ガソリン8.7Km／1L（ニュートラル+長梅雨でエアコン不使用が多かった）

6月⇒ガソリン7.6Km／1L（意識せずの運転）

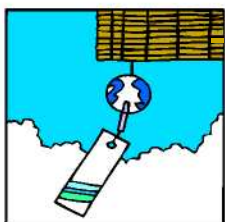
8月⇒ガソリン8.2Km／1L（ニュートラル+酷暑の為ほぼ毎日エアコン使用）

9月今日現在⇒ 同 様

わずか4ヶ月足らずの取り組みではありますが、確実に成果として手ごたえを感じています。ガソリン代の削減もCO₂の削減も同時に行えるこの取り組みを、当病棟のみならず病院全体で実施していけたら大きな成果につながると考えています。



・「ケアセンターかもがわ よしずをかけて涼しく」



ケアセンターかもがわの入り口は、ガラスのため日差しが入ります。

その対策として、入り口によしずをかけました。

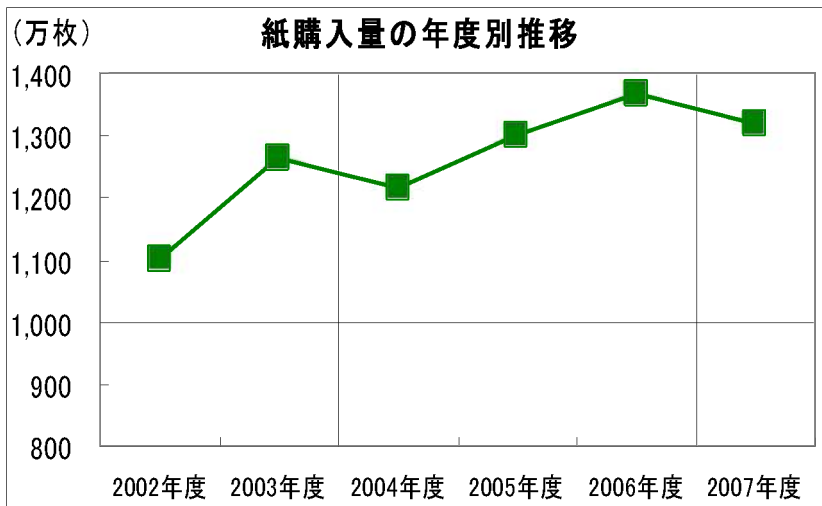
それによって、日差しがさえぎられ涼しくなりました。見た目もとても涼げです。

これで、クーラーの効きも良くなり、節電にもなっています。

(2) 紙使用量の削減と再生紙の使用促進

① パフォーマンス値の概要

1) 2007年度の概要



2007年度のパフォーマンス値の集計の結果、全体での紙購入量は、対前年度累計比で96.5%となり、3.5%前年度を下回り、3年ぶりの減少となりました。

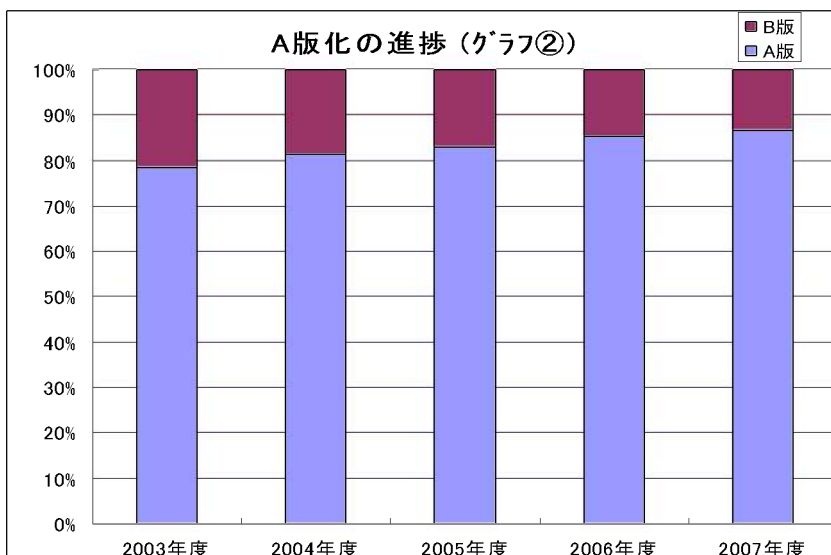
トータルでは2007年度で、13,180,500枚の紙を購入しましたが、前年度より471,000枚減少しています。年間購入枚数を面積にすると897,559㎡となり、東京ドームの19.2

倍に相当します。また、常勤換算職員一人当たりになると、年間紙購入量は約7,411枚で、1シメ500枚で数えると、一人約15シメになります。

昨年度は、紙使用量の削減目標と大きく乖離したために、マネジメントシステム委員会で紙の購入・使用について分析し、2007年度の紙使用量削減対策を7月に提起しました。その結果、“昨年度の98%以下にする”という2007年度目標を達成することができました。

紙の購入量は、昨年度、一昨年度と2年続けて増加していましたが、今年度は減少に転ずることができました。これは、電子カルテを導入した事業所で、紙使用量が増えていたものを各種の見直しによって抑制したこと等によるものです。今後もさらに、各事業所の実情に応じて、電子カルテで打ち出している紙の見直しを進める必要があるものと思われます。

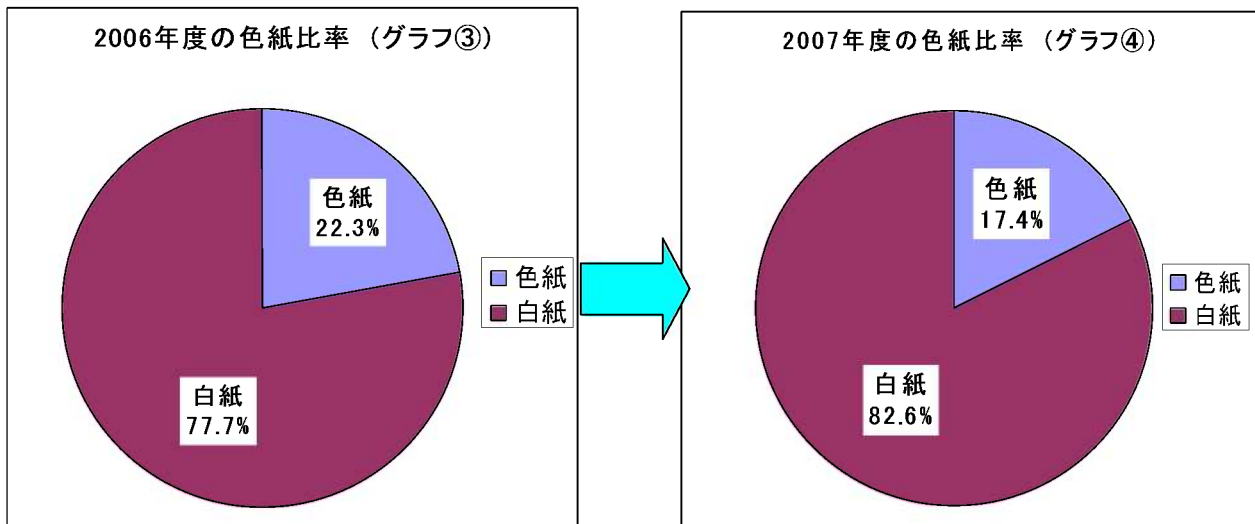
2) A版化の進捗



A4版化は、医療生協さいたま全体の方針として、この間推進してきました。その結果、左のグラフ②に見られるように、2003年度78.4%→2004年度81.5%→2005年度82.8%→2006年度85.2%→2007年度86.4%と着実に進んでいます。埼玉協同病院、埼玉西協同病院、行田協立診療所、老人保健施設さんどめでは、A4版化は9割以上に達していますが、まだ6割水

準にとどまっているところも見られます。それらの事業所での用途は、色紙同様組合員向け支部ニュース等が主とのことですが、B4→A4により、パルプ使用量も減り、単価も半分近くへ減少するのでさらに推進する必要があると思われます。

3) 色紙使用の適正化



私たちが使っている色紙は古紙配合 70%で 100%の再生紙ではなく、購入単価も A 4 白紙（古紙 100%）と A 4 色紙（古紙 70%薄口）を比較すると 3.5 倍、A 4 色紙（古紙 70%中厚）と比較すると 5.1 倍と白紙の 3～5 倍もするのでほんとうに必要性のある使用なのか検討の上、削減をはかる必要があることを昨年度から提起してきました。

しかし、組合員や患者向け配布物に色紙が多く使われていて、減少しにくい現実がありました。秩父生協病院や所沢診療所では、きちんと訴えて、徹底して管理したことにより、数%台まで減少させています。

それらによって、色紙比率は、2006 年度 22.3%（グラフ③）→2007 年度 17.4%（グラフ④）と減少してきています。今後、組合員にもエコ推進と経費対策の両面から提起し、白紙に切り替えていく必要があると思われます。

4) 紙の購入・使用管理

紙の購入・使用管理対策も紙使用量削減の上で重要だと考え、以下の対策を提起して、進めてきました。

a) コピー機や印刷機の管理を徹底するため手順書等を見直す

- ・コピー機や印刷機の管理を徹底することは、紙削減のポイントの一つと思われます。既存の手順書等があるところでは、管理の徹底と紙使用量の削減の視点で見直しを行うことを提起しました。
- ・本部では、昨年 7 月のオフィス印刷機の導入を契機に、使用手順と管理を徹底し、既存のコピー機・印刷機からの印刷物の移行と新機能の A 3 版 2 つ折り印刷の普及を図ってきました。その結果、紙購入量を対前年度比 85.7%と大きく減少させることに成功しています。

b) 電子カルテ導入に伴う紙使用量増加を抑える

- ・電子カルテの導入では、2006 年度に新規に導入した事業所では、軒並み紙購入量が増加しました。しかし、その後の見直しによって、2007 年度には、減少に転じさせることが出来ました。
- ・紙削減のポイントは、電子カルテに付随して打ち出している紙類の見直しと削減を行ったこと、裏紙使用の工夫（個人情報には要注意）、帳票類の削減又は圧縮を検討・実施したことによると考えられます。
- ・昨年度電子カルテを導入した事業所の紙購入量の前年度比は、拠点病院群が 95.4%、医科診

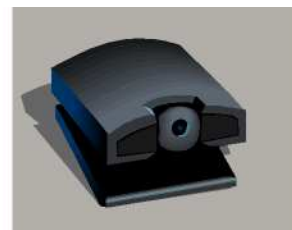
療所群が 95.2%と減少に転じています

- ・これらの教訓に学んで、電子カルテを導入した結果、“紙の印刷が増えるのは、仕方がない”とするのではなく、今後もいろいろな工夫を試みていくことが必要だと思われます。

5) 紙使用以外の伝達方法の追求

今年度も各事業所で、紙使用以外の伝達方法の追求がなされ、環境情報記録でもいくつか寄せられてきています。大きく分けると、以下の5点の取り組みが、追求されてきたものと思われま

- a) 電子メールの活用促進
- b) 会議時にプロジェクターを使用して、紙の配布物を減らす。
- c) ドキュワークス活用等によって、紙の打ち出しを減らす。
- d) FAX 送信の見直しによって、紙使用量を減らす。
- e) ISOXROSS の活用により、手順書等の紙配布を減らす。



す。今後も様々な工夫によって、紙使用量の削減にチャレンジしていくことが必要だと考えられます。

② 紙使用量削減の取り組み

運用基準
<ul style="list-style-type: none">・会議使用枚数の設定・機関紙、ニュースの効率的活用・紙購入量のチェック・裏紙使用、両面使用の推進・メールの積極的活用、FAX 効率的活用・再生紙の使用促進

2007 年度は、前年度が 5.0%の増加となったのを受けて、紙使用量（購入枚数）を、2006 年度の 98%以下に削減し、色紙比率を落とし、A 版化比率を高める」ことを目標に取り組みを進め、7 月には“2007 年度の紙使用量削減対策”を打ち出しました。

具体的には、「紙使用量削減・再生紙の使用促進規程」に基づき、左表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。

③ 取り組み事例

各事業所では、「紙使用量削減・再生紙の使用促進規程」や“2007 年度の紙使用量削減対策”を受けて、様々なアイデアを出し合って、紙使用量の削減に取り組んできました。次は、その事例です。

・「さいわい診療所 日報報告用紙の紙での印刷をやめる」

さいわい診療所では、1 日 2 枚出力していた日報報告用の用紙の見直しをおこない、紙に出力せずに画面だけで確認をするように運用変更しました。

その結果、月に 40~50 枚の紙削減を行えました。



・「川口診療所 電子請求開始で大幅な紙の削減」



川口診療所では、6 月の診療請求分から電子請求を開始しました。

1 次打ち出しのレセプトチェックでは、裏紙を使用し、レセプトは電子媒体にだけになったので大幅な紙の削減となりました。

・「埼玉協同病院 配布物の適正管理」

埼玉協同病院薬剤科では、毎月配られる定期購読雑誌やその他の配布物が、きちんとそれぞれの個人トレーに配られるように当番制で配る係りを決めました。

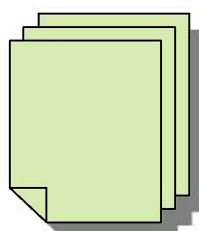
それぞれ担当する期間とその期間に担当する者の組み合わせを一覧表にし、それを回覧板として回し、自分の担当期間が終了したら次の担当者に渡すようにしました。

その結果、配布物が配られずに溜まることが無くなり、配布漏れをなくすことが出来、紙の無駄を減らすことが出来ました。



・「秩父生協病院 白紙への切り替えとA版化の進展」

秩父生協病院では、全県会議でのコピー用紙・印刷用紙の色紙から白紙への切り替えと、A版化進展の方針を受けて、病院誌を色紙から白紙に変更しました。



それ以外でも、白紙への切り替えを積極的に進めた結果、4月28%・5月37%あった色紙が、2月、3月には0%へと改善しました。

また、支部ニュースをB版からA版へ変更し、A版率が昨年度47.4%⇒73.1%に向上しました。

・「上福岡協同診療所 会議における紙使用量を削減」

上福岡協同診療所では、会議における紙使用枚数を変更することによって、紙使用量の削減を図っています。

管理会議は20枚→10枚、職員会議は15枚→10枚、デイケアは5枚→3枚、その他の会議は5枚とすることで、会議での紙使用量を減らしています。



・「川口診療所 薬の説明シートを再生紙に変更」



川口診療所の薬局では、薬の説明シートの用紙を07年度7月から再生紙に変更しました。

それに対する間接的な環境影響は、紙の原料である木の伐採を減少することにつながります。これも森林資源を守り、環境を保護する上で役に立っていると思います。

・「埼玉西協同病院 電子カルテシステム変更による紙の使用量削減」

埼玉西協同病院では、7月4日から電子カルテシステムの変更による紙の使用量削減に着手しました。

まず、入院患者用の採血指示書の紙出力を廃止し、これで毎月約200枚の削減になります。

また、リハビリ指示書の紙出力も廃止し、これは毎月5枚の削減となります。



2007年度の紙使用量削減対策

2007年7月6日 MS委員会事務局

☆はじめに

紙の購入量は、2005年度計では対前年度比106.9%で、前年度を6.9%も上回り、2006年度計でも、対前年度比105.0%のとなっています。従って、“昨年度以下に抑える”という2006年度目標を達成することができず、2年連続の増加となっています。そこで、詳しく分析した結果をふまえ、2007年度の紙使用量削減対策を提起したいと考えます。



1. 電子カルテ導入事業所での紙削減対策

- ・電子カルテに付随して打ち出している紙類の見直しと削減を行います。
- ・電子カルテに付随して打ち出している紙類の裏紙使用の工夫（個人情報には要注意）をします。
- ・電子カルテに付随して打ち出している帳票類の削減又は圧縮を検討・実施します。

2. 購入・使用管理対策の徹底

- ・各事業所の紙購入・使用管理手順書の見直しによる管理を徹底します。

3. さらなるA版化と色紙削減の推進

- ・B版と色紙の使用は、組合員向け支部ニュース等が多く残されているので、納得と理解を得た上での、A版白紙化の追求をします。

4. 紙使用以外の伝達方法の普及

①電子メールの活用促進

- ・サイボウズの諸機能の徹底活用をはかります。
- ・外部連絡への電子メールの活用（個人情報保護には注意）を促進します。



②会議時の紙配布物の削減

- ・プロジェクターの活用等による会議使用枚数の削減及び、登録枚数を厳守します。



③ドキュワークス・PDFの活用による資料の電子版管理

- ・紙ファイル保存を見直し、電子版化→ドキュワークス・PDF講習会等を開催します。

④FAX送・受信の見直し

- ・FAX送信の電子メール化又は直接送信の普及をします。
- ・FAX受信の紙打ち出しの見直しをします。



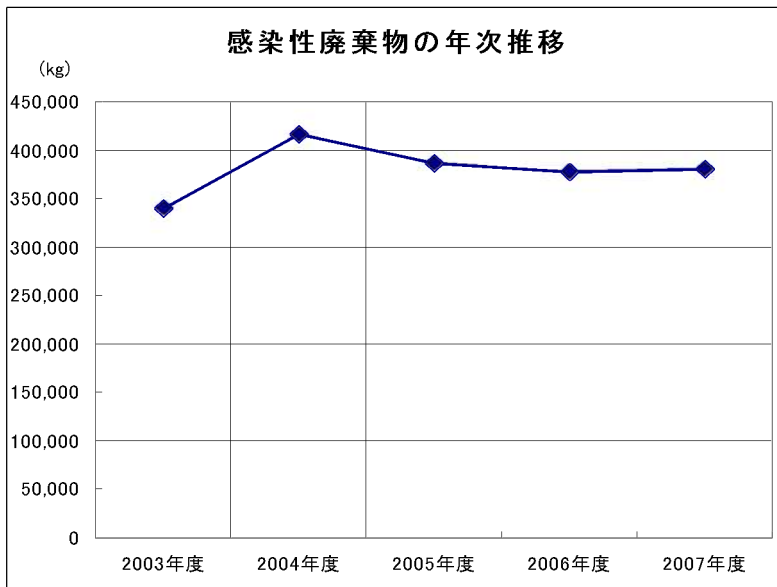
⑤ISOXROSSの活用

- ・手順書等の紙配布を減らします

(3) 廃棄物の削減と適正な処理

① パフォーマンス値の概要

1) 感染性廃棄物のパフォーマンス値



左図のように、全体での感染性廃棄物量は、2003年度⇒2004年度で122.5%と増加しましたが、本来一般の産業廃棄物としてもよい廃プラスチック類をより管理の厳しい感染性廃棄物として処理する事業所が増えたためでした。

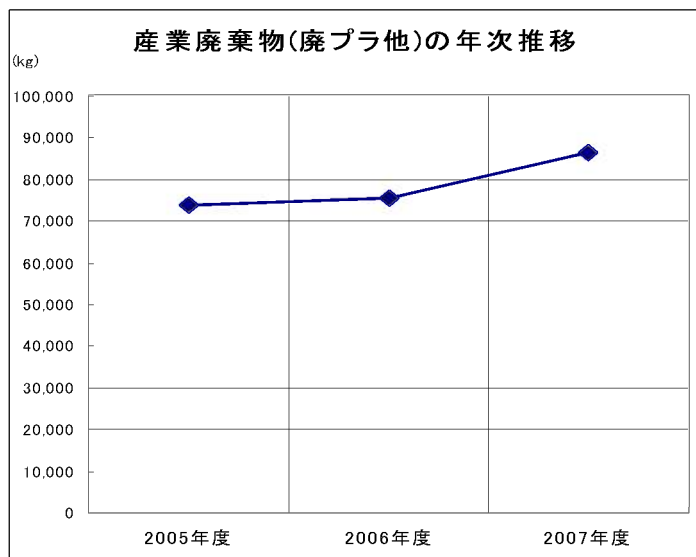
しかし、2004年度⇒2005年度では、92.6%と減少させ、2005年度⇒2006年度では、97.9%と2年続けた減少となったものの、2006年度⇒2007年度では、100.5%とわずかながら増加となりました。

その結果、今年度の「感染性廃

棄物を2006年度以下に削減する」とした目標は、達成できませんでした。

(尚、1 m³=300 kg、1 L=0.3 kgで換算)

2) 産業廃棄物（廃プラ他）のパフォーマンス値



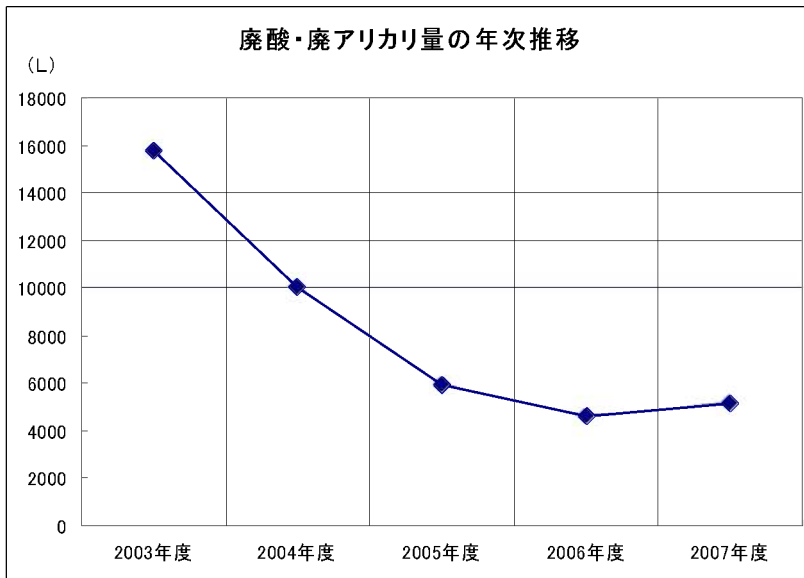
全体での産業廃棄物量（廃プラ他）は、2005年度⇒2006年度で102.6%と増加し、2006年度⇒2007年度では、さらに114.0%と増加しました。

本来一般の産業廃棄物としてもよい廃プラスチック類をより管理の厳しい感染性廃棄物として処理する事業所が5事業所あるので、感染性廃棄物と産業廃棄物の総重量を比較してみると2005年度⇒2006年度では、98.7%と減少しているものの、2006年度⇒2007年度では、102.8%と増加していることがわかります。

3) 廃酸・廃アルカリのパフォーマンス値

次図のように、全体での、廃酸・廃アルカリ（現像液）廃棄量は、2003年度⇒2004年度で63.6%、2004年度⇒2005年度で58.7%、2005年度⇒2006年度で77.8%と3年続けて大きく減少しましたが、2006年度⇒2007年度は、111.7%と増加に転じてしまいました。

しかし、この間もレントゲン撮影のデジタル化が順次進められてきていて、それらの事業所では、廃酸・廃アルカリ（現像液）の廃棄はなくなってきています。



② 廃棄物削減と適正な処理の概要

目標	運用と活動	運用基準
紙類の回収、再資源化の徹底	紙類の分別基準徹底	・紙類の分別と有効活用
感染性廃棄物を 2006 年度以下に削減する	マニフェストの交付	・マニフェストの交付と管理の徹底
	法に基づいた適正な運用	・法的手続きの適正化

2007 年度は、「紙類の回収、再資源化の徹底」、「感染性廃棄物を 2006 年度以下に削減する」の 2 つを目標に取り組みを進めてきました。

具体的には、「廃棄物管理規程」に基づき、上表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。

また、医療廃棄物がどのように処理されているのかについて、現地に赴いて確認することも行って、適正な処理に努めています。

③ 取り組み事例

各事業所では、「廃棄物管理規程」に基づいて、いろいろなアイデアを出し合って、取り組んできました。以下は、その事例です。

・「たんぼぼの家 生ゴミを堆肥に活用する」

たんぼぼの家では、今年も昨年に引き続き生ごみを再生利用して、庭の畑で野菜を育てています。今年のかぼちゃがとにかく豊作です。かぼちゃのつるが、ぐんぐんと伸びて、一時は隣の駐車場の敷地まで侵入していました。大きなかぼちゃが 10 個も採れ、デイサービスで煮物になったりサラダになったり、お味噌汁の具になったりと活躍中です。

ナスもトマトもたくさん採れました。

6 月 25 日には、組合員さんにも協力を頂いて収穫祭（バーベキュー大会）を開催しましたが、焼きナスは本当に美味しかったですよ。



・「秩父生協病院 エコキャップ運動を推進」

秩父生協病院では、エコキャップ運動を事業所を挙げて推進するとともに地域にも広げてきています。

これは、エコキャップ推進協会で行っている事業で、ペットボトルのキャップを集めて、世界の子供たちにポリオワクチンを受けさせるというものです。

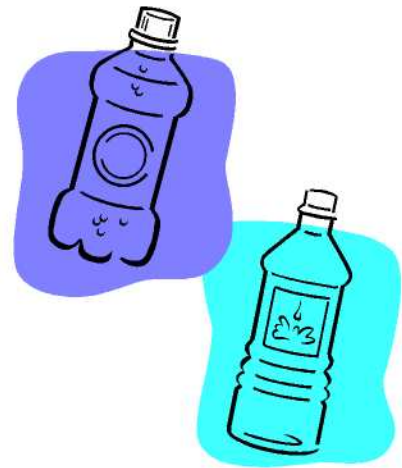
その内容は、キャップ 400 個 10 円で業者に引き取ってもらい、その利益でポリオワクチンを購入します。

1 人分 20 円で接種することができるとのことですので、キャップ 800 個が 1 人分のポリオワクチンになります。

また、業者に引き取られたペットボトルのキャップは、コンクリートパネルなどの製品に生まれ変わり、いろいろな所で有効活用されるので、ゴミの削減、そしてCO₂削減としても期待されています。

職員や組合員が秩父地域を回って、エコキャップ運動への協力を呼びかけてきましたが、その中で、他の医療機関やスーパーマーケット、公共施設等でもキャップを回収し、持参してくれるところが出てきていて、運動としても広がってきています。それは、地域のネットワークを作るうえでも役に立っています。

その結果、2007 年度全体では、112.29kg (約 44,916 個) キャップを収集しました。これは、56 本分のポリオワクチンを提供出来たことになり、またCO₂を 353kg 削減できたことに相当しました。



・「秩父生協病院 ゴミの分別の徹底」

秩父生協病院の一般病棟では、ゴミ箱の前に写真を貼って、一般ゴミと医療廃棄物の分別を徹底しています。

今までは、一般ゴミなのに医療廃棄物のゴミ箱に入れる人がいました。理由を尋ねると区別が分かりづらいとの事でした。

そこで、区別をはっきりするため写真を貼って、視覚ですぐにわかるようにして徹底できるようになりました。



・「熊谷生協病院 機関紙の梱包材を再利用」



熊谷生協病院では、機関誌「けんこうと平和」が輸送時に梱包されているビニール袋とビニール紐の再利用を行っています。

毎月 2 3 梱包発生しますが、9 月より梱包されているビニール袋とビニール紐を支部毎に分けました。

そして、送付する時に再利用することで、院内で破棄されるゴミの削減となりました。また、袋は大きめのゴミ袋としても再利用することができます。

(4) 環境負荷を軽減する活動の促進

① 「環境負荷を軽減する活動促進」概要

2007年度は、「業務改善・工夫による資源（医療材料）の抑制」と「環境負荷の少ない製品の積極的選択」を目標に取り組みを進めてきました。

具体的には、「環境負荷軽減活動規程」に基づき、下表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。

環境目標	運用と活動	運用基準
業務改善・工夫による資源（医療材料）の抑制	業務改善・工夫による資源（医療材料）抑制手順の研究	・業務手順の改善による推進
環境負荷の少ない製品の積極的選択	医療・衛生材料の対象品研究と採用	・調査研究と採用品の決定
	その他の対象品の採用拡大	・採用品目を増やす

② 取り組み事例

各事業所では、「環境負荷を軽減する活動促進」について、いろいろなアイデアを出し合って、取り組んできました。以下は、その事例です。

・「埼玉協同病院 カーボンオフセットの年賀状を採用」



埼玉協同病院で送る年賀状にカーボンオフセットの年賀状を採用しました。

定価は、55円（郵便料50円＋寄付金5円）の再生葉書で、この年賀はがきの寄付金は、地球温暖化防止を推進するプロジェクトを支援し、京都議定書で定められた日本の温室効果ガス排出削減目標であるマイナス6%に貢献することです。

・「秩父生協病院 自動現像機をドライイメージャーに置換」

秩父生協病院放射線科では、自動現像機をドライイメージャーに置換しました。

これにより、水道水使用の削減、現像・定着廃液の削減が期待できます。今まで、月間2000枚処理していたフィルムのうち1300枚がドライ処理となります。



・「行田協立診療所 環境に優しいペンキを使用」



行田協立診療所では、所内に健診コーナーを設置するため、ペンキが剥がれていた部屋の塗装を業者に依頼しました。

診療所の塗装ということで、においがなく、環境に優しいペンキを使用してもらうように依頼しました。

患者様がいない時間帯に塗装してもらいましたが、塗装最中も終了後もペンキの臭いがしませんでした。

・「本部けんこう文化部 事務用品の節約」

本部けんこう文化部の組合員サポート課では、事務用品(紙ファイル)の節約をしています。

組合員サポート課で扱っている 17 地域の班会報告書の綴りを年度ごとに新しいファイルにかえていましたが、今年度は表紙の年度を変えて再利用しました。

2006 年度の報告書は地域ごとに黒の綴じ紐でしばり、整理しました。その結果、17 冊のファイルが節約できました。



・「埼玉協同病院 バリウムの加温に機器の余熱を利用」

埼玉協同病院では、注腸用のバリウムを混和させる際、混ざりやすいように温める必要があり、今まではお湯につけて温めていました。しかし、温まりきるまでのお湯の温度を保つ為に、お湯を細く流しつつ使用して使用していました。時間制限する(長く使用しすぎない)など、過去に努力して



みましたが、やはり相当な量を使用していたと思われます。

今回、不要な熱の利用で温められないか検討した結果、フィルムイメージャーから放出されている熱で、温められることが判明し、部門内に徹底するよう呼びかけました。

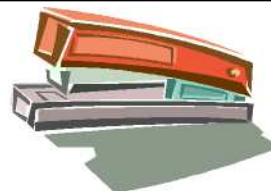
これにより、具体的な数値は不明ですが、水量とお湯にする為の熱の削減がされていると思われます。

・「熊谷生協病院 事務不用品の見直しと収集」

熊谷生協病院では、年度末に事務用品を大切に使いきることで、不用意に新しいものを購入しない等を訴える意味で、各部門に事務不用品見直しと収集を訴えました。

気軽に使ってしまうがちな事務用品ですが、無駄にすれば、あっという間に無駄経費になり、大切にすれば、心が通います。

「使いかけの文房具を探そう！」と声をかけ、集まった種類・数等をポスターで示し、さらに無駄な使用、購入計画を立てないなどの呼びかけをしました。



・「埼玉西協同病院 粉茶に代えて廃棄物減少」

埼玉西協同病院では、売店との協議の中で、従来の茶葉交換による給茶機から、粉茶を使用するタイプに変更することとし、8月20日より交換しました。

その結果、茶葉分の廃棄物減少になるとされています。



・「ケアセンターかがやき コーヒー豆を脱臭剤に使用」

ケアセンターかがやきでは、使用済みのコーヒー豆を乾燥させ、冷蔵庫や下駄箱の脱臭剤として再利用しています。

捨ててしまえば、ゴミになってしまいますが、ちょっとしたアイデアで有効活用できます。



(5) 環境に配慮したまちづくりに参加する

① 「環境に配慮したまちづくりに参加する」概要

2007年度は、「NO₂の測定を広げるなど、組合員と共に健康にくらせる環境づくりに取り組む」、「周辺の環境整備や緑化の推進に取り組む」ことを目標に活動を進めてきました。

具体的には、「環境に配慮したまちづくりに参加する活動規程」に基づき、下表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。

環境目標	運用と活動	運用基準
NO ₂ の測定を広げるなど、組合員と共に健康にくらせる環境づくりに取り組みます	NO ₂ の測定を広げる	・計画的にNO ₂ の測定者を広げていく
	環境をテーマとしたイベント開催（地区毎）	・各種行事や健康まつり等において、環境に関わるイベントの実施
	環境に関する学習、啓蒙活動の推進	・各事業所は環境に関する学習会を年1回以上開催
周辺の環境整備や緑化の推進に取り組めます	植栽や観葉植物の設置	・設置場所の決定と、担当者配置などの措置 ・事業所周辺の環境保全と緑化に役立つ計画を立てて、実行
	自治体、地域の環境に関する事業、企画に積極的に参加する	・関連する自治体、地域の環境に関する事業、企画に積極的に参加する

② 取り組み事例

各事業所では、「環境に配慮したまちづくりに参加する」活動について、いろいろなアイデアを出し合って、取り組んできました。以下は、その事例です。

・「埼玉西協同病院 病院敷地内と周辺の美化活動をしました」

埼玉西協同病院では、10月22日（月）に組合員さん10人・職員9人の合計19人が参加して、病院敷地内と周辺の美化活動を行いました。

花と球根植え、枯れ木の伐採、草むしり、ゴミ回収などを実施しましたが、秋晴れのさわやかな中、組合員さんと職員が協力をして楽しく出来ました。

今回はパンジーをとチューリップの球根を植えたので春が楽しみです。



・「生協ちちぶケアステーション 花の苗をプレゼント」



生協ちちぶケアステーションでは、先日蒔いたマリーゴールドがオレンジと黄色のかわいい花をつけました。たくさんの苗ができたので、花好きな利用者様に分けようかと思い、プレゼント用にラッピングしました。

持参することで利用者様との会話も弾み、楽しみを持って育ててもらえることを願いつつ40名ほどに配布する予定です。

・「生協介護センターこだま 花の苗づくりをしました」

生協介護センターこだまでは、今年度も花の種から、花の苗づくりをしました。昨年度と同様に利用者や組合員さんの花の苗をほしい方に配りました。

そして、あさがおの苗・ミニひまわりの苗・ナスチウムの苗を事務所前に置きました。アパートの方や運営委員さんなどに持っていかってもらいました。

また、7月1日たんぼぼ保育園のバザーに持参し、苗の一個ずつに事業所の宣伝にと電話番号など記入した用紙を貼り付けて、花の苗希望者に分けて差しあげました。



・「川口診療所 年3回の院内清掃を計画」



川口診療所では、事業所目標で年3回の院内清掃を計画しています。

6月に第1回目として、職員・ボランティアさんの力をかりて生い茂っていたいた木々をすっきりと切り込みました。形もよく、とっても明るくきれいになりました。また、周辺のごみひろいも行いました。

・「ながとろケアステーション “ごみゼロの日” 参加しました」

ながとろケアステーションでは、“ごみゼロの日” 参加しました。

5月の最終日曜日27日が、事務所のある野上地区恒例の“ごみゼロの日”でした。当事業所からも職員が5名参加し、地域の方々と一緒にゴミ拾いを行いました。

前日とは打って変わって、朝から良く晴れとても暑い日になりましたが、地域の方々と一緒に道路の植え込みの草むしりや、ゴミ拾いを行いました。



・「行田協立診療所 駐車場の清掃活動を継続」



行田協立診療所では、2006年度、偶数月の第2月曜日職員会議開始前に20～30分診療所駐車場清掃を行なってきました。

そこで、2007年度も継続して行なうこととし、第1回を4月9日（月）に職員6名で行いました。草むしり、掃き掃除で駐車場はきれいになりましたが、以前より減ったものの、たばこの吸い殻ゴミがいくつか見られました。駐車場が常に美しい状態であるように工夫していきたいと思えます。

・「あさか虹の歯科 花壇の手入れをしました」

あさか虹の歯科では、5月23日（水）午前10時～11時半にかけて診療所前花壇の除草・草花の選定を行いました。

いつも診療所前を通行している人（患者さん以外にも）に「いつも綺麗でいいですね」と声をかけられていました。今回も大変綺麗になりました。



「二酸化窒素の測定」実施 ～組合員との協同で環境守る活動推進

「埼玉の空をきれいにする会」に加盟する「埼玉県生活協同組合連合会」の一員として、医療生協さいたまも毎年6月と12月の年2回二酸化窒素濃度測定に取り組んでいます。測定数を昨年同月と比較すると、6月は103.9%、12月は100.4%と共に増加しています。



<2007年二酸化窒素測定の結果>

6月測定は測定登録箇所のうち、2,965ヶ所での測定結果を分析し、単純平均は28.6ppbになりました。



昨年同期（2006年6月）の平均は53.6ppbだったので、昨年度よりは低い数値になりました。

また、12月測定は測定登録箇所のうち、2,896ヶ所での測定結果を分析し、単純平均は55.6ppbになりました。

昨年同期（2006年12月）の平均は40.6ppbだったので、昨年度よりは高い数値になりました。

◆ppm（パーツパーミリオン）

100万分の1を表す単位で、大気汚染の汚染物質の濃度を表す単位として使われます。例えば、大気中二酸化窒素1ppmとは、1立方mの大気中に1立方cmの二酸化窒素が含まれていることになります。

◆ppb（パーツパービリオン）

10億分の1を表す単位で、1ppmは1ppbの1000倍にあたります。

1ppb=0.001ppm=10億分の1=0.0000001%



<2007年12月に酸化窒素測定値ワースト10>

順	ppb	市町村	院所	支部	測定地点住所
1	154	白岡町	かすかべ	白岡	千駄野 356 白岡町立南小学校
2	134	八潮市	みぬま	八潮	浮塚 626-8-110
3	132	さいたま市	おおみや	宮原	大宮バイパス国道事務所
4	130	草加市	みぬま	草加	両新田西町 331 自宅前
4	129	吉川市	みぬま	吉川	保交差点東西側
6	127	川口市	さいわい	中青木	中青木 1-9-5 自宅ベランダ
7	126	八潮市	みぬま	八潮	大曾根交差点 亀有信用金庫前
7	126	草加市	みぬま	草加	青柳町 4丁目外環交差点
9	124	さいたま市	おおみや	宮原	今羽東交差点
10	123	ふじみ野市	大井	大井中央	大井町桜ヶ丘 2-7-11 新井サイクル前
10	123	川口市	協同	安行	安行原 1258

(6) もっとも愚かな環境破壊である戦争につながる行為に 反対し、平和を守る

① 「もっとも愚かな環境破壊である戦争につながる行為に反対し、平和を守る」の概要

2007年度は、「組合員と協同し、憲法9条と平和を守る活動に取り組む」ことを目標に進めてきました。

具体的には、「戦争につながる行為に反対し平和を守る活動規程」に基づき、下表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。

環境目標	運用と活動	運用基準
組合員と協同し、憲法9条と平和を守る活動に取り組む	平和をテーマとした学習会等の開催	・各事業所で年1回以上計画し、実行する
	戦争に反対し、平和を守る活動に取り組む	・各事業所の特色や部門の特色を生かして取り組む

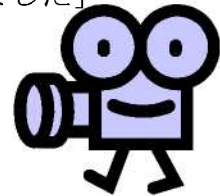
② 取り組み事例

各事業所では、「戦争につながる行為に反対し平和を守る活動規程」に基づき、いろいろな工夫をして取り組んできましたが、以下は、その事例です。

・「おおみや診療所 原水禁参加者の激励と映画会の集いを開催しました」

おおみや診療所では、「原水禁参加者の激励と映画会の集い」を7月26日（木）午前10時～12時に、診療所2階会議室で行いました。

映画は、「ある同姓同名者からの手紙」という1992年の作品で、原爆の恐ろしさと平和について考えさせられるものでした。



・「ケアセンターさきたま 国民平和大行進に4名が参加」

ケアセンターさきたまでは、7月3日（火）国民平和大行進に4名が参加しました。



午前9時に行田市役所を出発し、『さきたま古墳公園』までを歩き、平和への思いを新たにしました。参加者からは、『平和大行進』初体験でした。若い人達どんどん参加してください」「今回初めて参加しました。平和の願いが世界に広がりますように」の感想が出されました。

・「秩父生協病院 原水禁世界大会報告とは一とふるコンサート実施」

秩父生協病院では、“原水禁大会参加報告会”と“は一とふるコンサート”を実施しました。

長崎の原水禁世界大会に参加した吉田君、多比羅さんを代表して多比羅さんがパワーポイントを使いながら報告しました。若い人たちに平和の思いが受け継がれていくことは大切なことです。

“は一とふるコンサート”は「青い空は青いままで」を作曲された大西進さんが作曲された合唱組曲あらかわが「かたくり」の会によって披露されました。清流荒川を大切にしようという思いが込められていました。



☆今年度も特に憲法9条を学び、平和憲法を守る活動が取り組まれました！

・「ケアセンターさきたま 憲法9条ブローチ身に付けています」
ケアセンターきょうどうでは、憲法9条を守るための活動として、組合員さんが、ビーズですてきなブローチを作り、持ってきてくださいました。



1つ500円ですが、職員7名が、購入し、憲法9条の大切さを広めるための普及活動として、身に付けています。

・「あさか虹の歯科 憲法と平和を考える：平和学校沖縄教室報告会を開催」

あさか虹の歯科では、7月11日「憲法と平和を考える：平和学校沖縄教室報告会」を開催し、19名が参加しました。

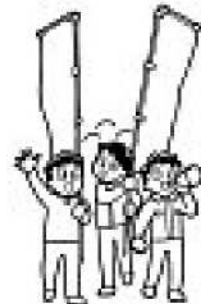


6月21日～24日に行われた「平和学校」に朝霞和光支部から参加した白石清夫さんの報告と原水禁世界大会に参加する職員富岡幸代さんから決意表明がされました。

会では、「戦争しても偉い人は戦地に行かない。犠牲になるのはいつもわたしたち庶民。絶対に戦争をしてはならない。」「戦地で闘っている兵隊さんだけでなく家族や軍馬として国に提供を強要された国民一人ひとりが戦争に対する思いがある。」。今、参議院選挙が始まっているが、「憲法9条を守る政治勢力の躍進が必要。」などの意見交流が行われました。

・「本部 3.6 に憲法9条と25条を守る平和宣伝行動を実施」

本部エコリーダー会議では、3月6日（木）夕方17時30分～18時30分、JR東浦和駅頭で、憲法9条と25条を守る平和宣伝行動を実施しました。



6・9行動に呼応し、2度と戦争を繰り返してはならないという思いを込めて、ハンドマイクでも訴えました。また併せて、後期高齢者医療制度の中止、撤回も呼びかけました。



5名が参加し、1時間の行動で、「9条署名」、「後期高齢者医療制度中止・撤回」、「核兵器廃絶」の署名も集めました。また、「後期高齢者医療制度中止・撤回」のチラシも配布しました。

・「ケアセンターとこしん 憲法学習会を実施しました」

センターとこしんでは、2008年7月26日（木）18:00～19:00 平和学習会として憲法9条について行いました。



講師は小手指9条の会の責任者の宮川清三郎氏です。はじめて聞くスタッフにもわかりやすく、資料も準備していただき好評でした。登録ヘルパーさんも参加し、全体で19名となりました。

はじめて聞いた職員も「戦争と憲法が結びついていることがわかり、憲法改正に反対していかなければと思った。」「大切な税金が軍事費に使われているなんて許せない。」などという声がかけられました。



医療生協さいたま 2007年度

環境報告書

発行：2008年8月31日

発行者：医療生協さいたま生活協同組合

〒333-0831

埼玉県川口市木曾呂 1317

TEL (048-294-6111)

編集：医療生協さいたまマネジメントシステム委員会